

『司祭の手紙』なるものを始めたのは、山元神父様からでしょうか？それ以前にこちら行橋小教区で、主任司祭の言葉を毎月、プリントアウトして出す、というようなことがあったのかは存じ上げません。山元神父様も、よっぽど皆さんに語り掛けたいことがあったのでしょうか？個人的には、こういう毎月出すメッセージって、正直少々苦痛です。「何書こうかな？」と毎回頭を悩ませるからです。

一つの違和感は、自分の意見を皆さんに表明する場合は、ミサの時の説教・（派遣の祝福前の）連絡・毎月の評議会・皆さんと個人的に話す機会などがあるわけで、「わざわざ手紙を書く必要があるのかな？」という思い。伝えたいことがあれば、面と向かって言えばいいじゃないか？もちろん、人間ですから言い忘れることもあるわけで、また、手紙としてメッセージを出すという事が間違っているとは言いませんが……。



それでもフト思うんですね。教会に定期的に足を運んでいる人々に向けて、この手のメッセージを発することに如何ばかりの意味があるんだろうかと。ま、まったく意味なしとも申しませんが……。

自分の個人的な考えを絶対化して、山元神父様やペリオン神父様を批判するつも

りはありません。彼らには彼らなりの視点と善意の考えがあったことでしょう。しかし、私は最近、思うようになったんです。「この“司祭の手紙”は、本来、諸般事情で教会に来なくなった人々のもとに向けてメッセージを送ってこそ、意味のあるものじゃないか？」と。



私は、（行橋小教区に限らず）ホームページを見ませんので、よくわからないのですが、この“司祭の手紙”も掲載されているんですかね？教会でプリントを配布するにせよ、ホームページに掲載するにせよ、読む人って、比較的、教会への意識がある人、（行橋小教区に限らず）教会にちゃんと足を運んでいる人だと思うんですね。

それより、教会に関心を失ってしまった信者さん・教会に来ない信者さんに届けて（あるいは送りつけて）こそ、また、内容を“彼ら向け”にしてこそ、より意味あるものじゃないか？

郵送で送りつけるか、あるいは共同体のメンバーの皆さんが「ねえ、元気？今どうしてる？みんな教会で待ってるよ」と訪ねたついでに渡していただくか、そういう働きかけに変換してゆくべきかな、と個人的には思っています。もし、それを実行するとなると、郵送料はかかるし、共同体の皆さんにも一肌脱いでいただく事になるのですが、いかがでしょうか？